

バスケットボールフリーペーパー
ハッスルボード

VOLUME
004

2024年7月15日発行
(株)オンザコート
<http://www.onthecourt.jp/>

TAKE FREE

Hustle Board

BASKETBALL INFORMATION
DELIVERED BY ON THE COURT

B.LEAGUE / W.LEAGUE Review

2024 HOOPREX CLINIC in HYOGO

チーム探訪

大阪薫英女学院高等学校 / 光泉カトリック高等学校
2024 インターハイ直前レポート

Nissy's TRAVELING Talk
Special edition

[TOPIX]

amiami & デフバスケットボール

X CUP 東京スポーツ・レクリエーション専門学校

HOOPREX CUP

OTC くきや 通信

COLUMN & PRESENTS

Growing
through the
SUMMER

2024
July
7



群雄割拠感を年々増しているWリーグは、第25回のシーズンも大熱戦が繰り広げられた。約6カ月にわたったレギュラーシーズンの1位は23勝3敗の富士通だったが、皇后杯を初めて制して勢いのあるデンソー、かつて11連覇の偉業を達成したこともある

さらには、そこに割って入ったチームもあった。レギュラーシーズン5位のシャンソン化粧品は、過去2シーズンも番狂わせを演じてベスト4に進出していながら、今シーズンも一発勝負のクオーターファイナルでトヨタ自動車を撃破。それも、最大18点差をひっくり返す大逆転劇だった。2戦先勝のセミファイナルは最終的に富士通の地力に屈したとはいって、その第2戦も試合開始から0-19と大きく先行されながら逆転勝利。短期決戦での勝負強さという点では、上位4チームをしのぐものがあった。

もう一方の山からはデンソーがファイナルに駒を進めた。昨シーズンまで全く歯が立たなかつたENEOSを相手に、第1戦は19点差、第2戦は16点差と完勝。日本代表でもスターターを務める高田真希と赤穂ひまわりを擁する布陣に、昨シーズンを休養にあてていた馬瓜エブリンが加入し、攻守両面で隙のないチームとなつた。ENEOSは成長著しい星杏璃の大ケガなど主力の戦線離脱も大きく響いたが、チームの完成度という点でデンソーを上回ることができず、敗れ去る結果となつた。

来季より「プレミア」と「フェューチャー」

こうして富士通とデンソーによる頂上決戦となつたファイナルは、予想に違わず激戦となつた。第1戦(入場者数4589)を富士通が、第2戦(入場者数7225)をデンソーが取り、迎えた第3戦(入場者数4864)も富士通が先行すればデンソーザがその都度点差を詰める緊迫した展開。そんな中、後半はジョシュアンフオンノボンテミトへのインサイドを強調し、要所で宮澤夕貴の得点力も光つた富士通に対し、レギュラーシーズンの1試合平均失点がリーグで唯一60点を切つていただけのデンソーザのディフェンスが徐々に後手に回り、最終スコア89-79で富

士通が16年ぶりのリーグ制覇を成し遂げた。東京五輪で世界に名をとどろかせた町田瑠唯にとつては、入団後初めての優勝。プレーオフMVPは、宮澤がENEOS時代以来2度目の受賞となつた。

来たるシーズン、Wリーグは2部制に移行する。プレミア(1部)で迎えるのは、上記の5チームの他にトヨタ紡織と日立イテク、アイシン。低迷が続き、プレーオフから遠ざかっていたアイシンは、電撃的な現役復帰を果たした吉田亜沙美と、日本代表のホープと目される野口さくらを迎えたことでステップアップ。プレーオフでもシャンソン化粧品に一時2点差まで迫る粘りを見せた。来シーズンはさらに飛躍し、上位に食い込むことができるか。トヨタ紡織も、トヨタ自動車を連覇に導いたルーカス・モンデーロッドコーチの手腕が問われる重要なシーズンになるだろう。

その他の6チームはフェューチャー(2部)で戦うこととなつたが、シャンソン化粧品を撃破した東京羽田を筆頭に、プレーオフ進出チームに土をつけたチームも多く、どのチームも潜在的な力を感じさせるシーズンだった。全チームに白星増が見込まれ、プレミア昇格という新たなモチベーションも加わる来シーズンは、今まで以上に見応えのあるシーズンになることを期待したい。

プレミアも、そしてフェューチャーも、競争がより激化することは確実。リーグ創立から四半世紀が過ぎ、パリ五輪を経て迎えるWリーグの新時代は、はたしてどのように切り拓かれていくんだろうか。

1万6678人が見つめたファイナル 華麗な新時代の幕開けと躍進への熱量

吉川 哲彦一文
text by akihiko yoshikawa



◆女子組み合わせ



◆予選ラウンド

7月29日(月)21:00(日本時間 翌4:00)vs アメリカ
8月1日(木)11:00(日本時間 18:00)vs ドイツ
8月4日(日)11:00(日本時間 18:00)vs ベルギー

◆決勝トーナメント

8月7日(水)準々決勝
8月9日(金)準決勝
8月11日(日)決勝、3位決定戦

※平均:173.6cm、28.8歳
※年齢・所属は2024年6月22日現在
※ポジション=PG(ポイントガード)、SG(シューティングガード)、SF(スマッシュフォワード)、PF(パワーフォワード)、C(センター)

女子日本代表チーム(6月25日現在)

ヘッドコーチ 恩塚亨(公益財団法人日本バスケットボール協会)

内定選手 ※12名

No.	氏名	ポジション	身長(cm)	所属
#3	馬瓜ステファニー	PF	182	CASADEMON ZARAGOZA
#8	高田真希	C	185	デンソー アイリス
#12	吉田亜沙美	PG	165	公益財団法人日本バスケットボール協会
#13	町田瑠唯	PG	162	富士通 レッドウェーブ
#15	本橋菜子	SG	164	東京羽田ヴィッキーズ
#23	山本麻衣	SG	163	トヨタ自動車 アンテローブス
#27	林咲希	SF	173	富士通 レッドウェーブ
#30	馬瓜エブリン	PF	180	デンソー アイリス
#32	宮崎早織	PG	167	ENEOSサンフラワーズ
#52	宮澤夕貴	PF	183	富士通 レッドウェーブ
#75	東藤なな子	SF	175	トヨタ紡織サンシャインラビッツ
#88	赤穂ひまわり	PF	184	デンソー アイリス

B.LEAGUE

B.LEAGUE 2023-24 REVIEW

観客の熱視線が競技レベルを押し上げ リーグの成長も急加速で上昇していく

吉川 哲彦一文
text by akihiko yoshikawa

昨夏のワールドカップにおける日本代表の躍進を受け、多くのクラブが観客動員を大幅に伸ばしたBリーグ。競技レベルも向上の一途をたどり、手に汗を握る白熱した戦いが展開された。B1東地区では、過去2度のBリーグ制覇を誇る宇都宮ブ



©B.LEAGUE

「変化」「こそ」「進化」に欠かせない糧

広島の優勝は、今シーズン限りでの引退を表明していた朝山正悟の花道を飾るものでもあった。他にも、桜井良太(レバンガ北海道)とニック・ファジー・カス(川崎ブレイブサンダース)が今シーズンを最後に、長い現役生活に別れを告げた。混戦に拍車がかかり、東地区優位と言われてきた勢力団も塗り替えられつつあるB1は、日本バスケット界に名を残すスターたちの引退で、新時代の到来も

第1戦は琉球が貫禄を見せ、連覇に王手をかけたものの、第2戦は広島が琉球を63点に封じて逆王手。そして第3戦、広島のディフェンスが琉球を圧倒し、65-50で広島が勝利。日本代表常連の選手がいない中、実績十分の強豪が居並ぶ熾烈なCSを勝ち上がり、「見事な下剋上」を果たしてみせた。ファイナルMVPには、CSの8試合で56%という驚異的な3ポイント成功率を叩き出した山崎が選ばれている。

しかし、フタを開けてみると、レギュラーシーズンの勝率上位3クラブがクオーターファイナルで敗退。宇都宮は昨シーズン準優勝ながら今シーズンはワイルドカード下位でCS進出の千葉ジェッツに敗れ、A東京はリーグ連覇を狙う琉球の底力に屈し、三遠はワイルドカード上位の広島ドラゴンフライズの強固なディフェンスを打破できなかつた。広島は、三河との愛知ダービーを制した名古屋Dもセミファイナルで撃破。ファイナルは、千葉Jを下した琉球と広島による、リーグ初の西地区同士の顔合わせとなつた。

レックスがリーグ全体1位の勝率を記録。同じく2度の優勝経験を持つアルバルク東京とともに、優勝候補に名乗りを上げた。中地区は三遠ネオフニックスが7シーズンぶり、シーホース三河が3シーズンぶりのチャンピオンシップ(CS)進出。激戦区となつた西地区は、名古屋ダイヤモンドドルフィンズが琉球ゴールデンキングスの地区7連覇を阻止した。

予感させる。

河村勇輝(横浜ビー・コルセアーズ)という若きスーパー・スターに加え、来シーズンはNBAで6シーズンにわたって活躍した渡邊雄太がBリーグの舞台に「逆輸入」される。2年後のリーグ刷新も控え、Bリーグはその進化の歩みを止めない。そして、そこには新勢力の台頭も望まれる。B2は、昨シーズン降格した滋賀レイクスが1年でのB1復帰を果たすと同時に、越谷アルファーズが初の昇格。レギュラーシーズンは苦しんだ時期もありながら、プレーオフに入るとギアが上がり、レギュラーシーズンで56勝4敗と他を圧倒したアルティーリ千葉にセミファイナルで連勝して悲願成りとなつた。越谷は、Bリーグ発足以降に企業クラブからプロ化した経緯を持つ特殊なクラブであり、B3に2シーズン以上所属したクラブが初めて昇格した例にもなつた。地域にも急速に浸透し、今後の施策が非常に楽しみなクラブだ。

また、無類の強さでB3を制し、意気揚々とB2に乗り込む福井ブローウインズにも大きな期待がかかる。新規参入クラブが1シーズンでB2に昇格するのは、今シーズンからB1で戦っている佐賀ブルーナーズや長崎ヴエルカと同じ。バスケット空白地域だった県に新しいクラブが続々と誕生し、バスケット熱が日本全国に広がつて、いることをさまざまと感じさせるシーズンでもあつた。着実な強化が実つているクラブも増え、プロ野球・Jリーグに続くメジャースポーツとして、Bリーグの発展はますます加速していきそうだ。



©B-CORSAIRS

男子日本代表チーム(7月8日現在)

ヘッドコーチ トム・ホーバス (公益財団法人日本バスケットボール協会)

選手 ※12名

No.	氏名	ポジション	身長(cm)	所属
#2	富樫 勇樹	PG	167	千葉ジェッツ
#4	ジェイコブス 晶	SF	203	ハワイ大学
#5	河村 勇輝	PG	172	横浜ビー・コルセアーズ
#6	比江島 慎	SG	191	宇都宮ブレックス
#7	テーブス 海	PG	188	アルバルク東京
#8	八村 墓	PF	203	ロサンゼルス レイカーズ
#12	渡邊 雄太	SF	206	—
#18	馬場 雄大	SF	195	—
#24	ジョシュ・ホーキンソン	C・PF	208	サンロッカーズ渋谷
#30	富永 啓生	SG	188	—
#34	渡邊 飛勇	C	207	信州ブレイブウォリアーズ
#91	吉井 裕鷹	SF	196	三遠ネオフェニックス

◆男子組み合わせ

グループA
オーストラリア(5位)
ギリシャ(14位)
カナダ(7位)
スペイン(2位)

グループB
フランス(9位)
ドイツ(3位)
日本(26位)
ブラジル(12位)

グループC
セルビア(4位)
南スル丹(33位)
ブルガリア(16位)
アメリカ(1位)

◆予選ラウンド

7月27日(土)13:30(日本時間20:30)vs ドイツ
7月30日(火)17:15(日本時間24:15)vs フランス
8月2日(金)11:00(日本時間 18:00)vs ブラジル

◆決勝トーナメント

8月6日(火)準々決勝
8月8日(木)準決勝
8月10日(土)3位決定戦
8月11日(日)決勝

※平均:193.7cm、26.4歳

※年齢・所属は2024年7月8日現在

※ポジション=PG(ポイントガード)、SG(シューティングガード)、SF(スマッシュフォワード)、C(センター)

2024 HOOPREX CLINIC in HYOGO

GREEN ARENA KOBE 2024.6.22-23

主催:一般財団法人兵庫県バスケットボール協会
主管:兵庫県社会人バスケットボール連盟 協力:株式会社オンザコート

6月22、23日の2日間、グリーンアリーナ神戸を会場に『2024 HOOPREX CLINIC in HYOGO』が開催された。両日とも午前中はU12、午後はU15の選手が対象で、連日参加を含めてU12が273名、U15は184名の選手が集まった。大きなアリーナには3面のコートが用意され、6つのグループに分かれて指導を受けた選手たち。マイボールを胸に抱いてコーチのアドバイスに耳を傾け、すぐに散らばってプレーを始める。「もっと上手くなりたい!」気持ちが伝わってきた。

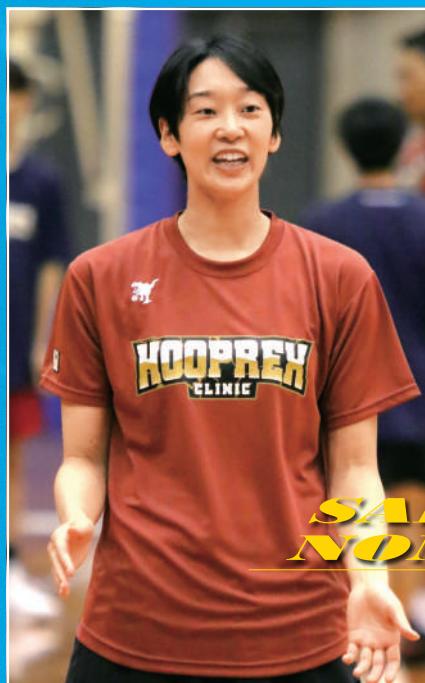
「バスケを好きになってほしい」……今回のクリニックでメインコーチを務めた早稲田大学・倉石平氏のコメントだ。テレビ解説等で用意したドリルを進めていく。各グループには複数のコーチの他、一緒にプレーをしながらサポートをする実業団の選手たちもおり、参加者は多くても、コーチとコミュニケーションを取りやすい環境が整う。

「男女とも登録者が多いバスケットですかね、すそ野を広げられるようこのクリニックを継続していきたいと考えています。知名度のある方にコーチをお願いし、『この人に教わりたい』『一緒にプレーできれば』という選手たちは、兵庫県バスケットボール協会の田原裕久理事。その言葉通り、ユーチューバーとして活躍するアオキックスこと青木太一コーチや、映画『THE FIRST SLAM DUNK』でバスケットボール監修を務めた山本達人コーチ、現役Wリーガーの野町紗希子選手(東京羽田ヴィッキーズ)らが指導する姿があった。

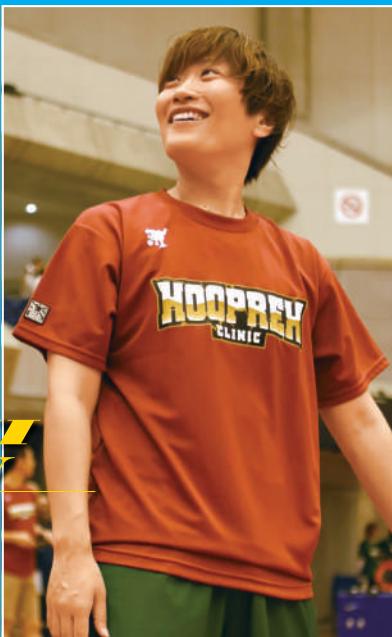
気づきのあるクリニック

「ここで左手のシュート! U12の子どもたちは想像していないプレーをすることがあります」と笑顔を見せた石川幸子コーチはWリーグ、山梨クィーンビーズのヘッドコーチだ。トップカテゴリーで指揮を執り、教える側でく

りづきのあるクリニック



野町紗希子
東京羽田ヴィッキーズ



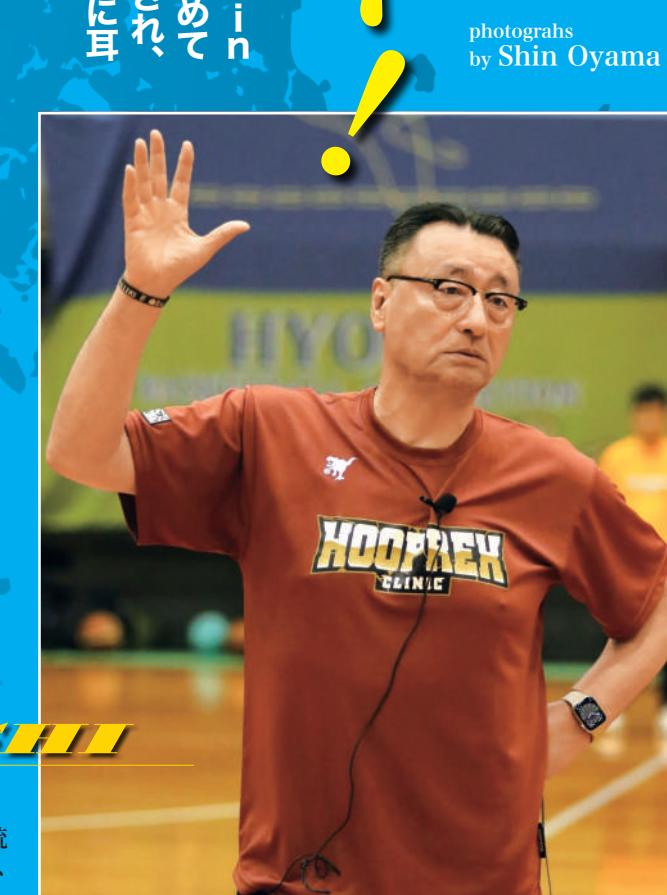
MAYUMI CHONAN
長南 真由美
専修大学女子バスケットボール部
ヘッドコーチ

クリニックに参加しているのが、「クリニックはいつも気づきがある」とのこと。教わる側の選手たちも一方通行で終わるのではなく、「できる選手ができる選手に助言をするのもいいでしょう。選手同士で『こうだよ』『こうしてみれば』というコミュニケーションが生まれると、きっと楽しくなってきます」というのは山本コーチ。

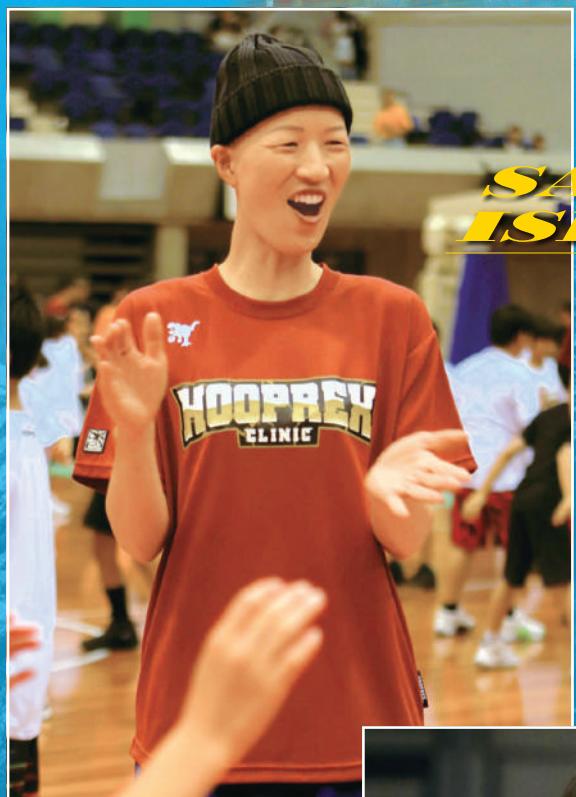
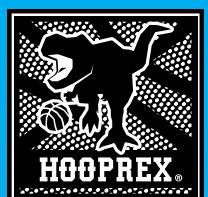
青木コーチはデモンストレーションで見本となるプレーを披露したが、「他のコーチたちのアドバイスをかみ砕き、わかりやすく伝えよう」と心がけています。かといってバスケ用語を使わなければ子どもたちの勉強になりませんから、そこはバランスを取りながら気をつけている」という。コーチ全員が口をそろえるのは、コミュニケーションを取ることの大切さ、自分から積極的に取り組んで、失敗を恐れずトライすることの大切さだ。

今回のクリニックも、最初は静かなスタートだったが時間が経つにつれ、選手たちが上手くいっているといった。すぐに上達すれば、なかなか上手くいかないことも

ある。冒頭の言葉通り、「バスケを好きになる」とも良い機会になったはずだ。



OSAMU KURAIISHI
倉石 平
早稲田大学 男子バスケットボール部統括コーチ/女子バスケットボール部顧問、3x3日本代表強化部会長

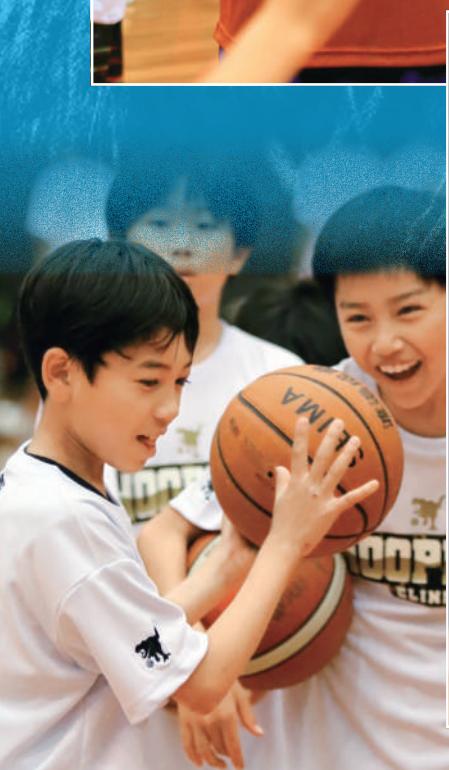


SACHIKO ISHIKAWA

石川 幸子
山梨クィーンビーズヘッドコーチ

TAICHI AOKI

青木 太一
AOKICKS：バスケットボールYouTuber、
株式会社ing代表取締役

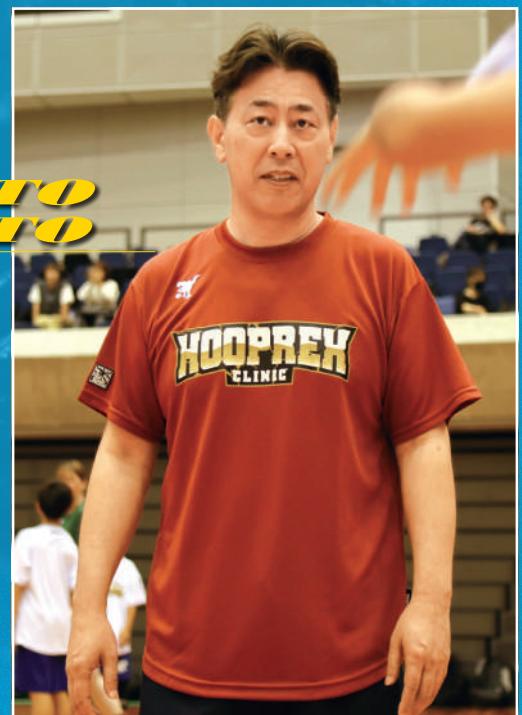


TATSUHITO YAMAMOTO

山本 達人
JBA：A級コーチ・ジュニアエキスパート、日本スポーツ協会上級コーチ、映画『THE FIRST SLUM DUNK』バスケットボール監修

SARI OSABE

長部 沙梨
元トヨタ紡織サンシャインラビッツ



クリニック
探訪

「育成は公平」に、納得のゴールを示す

バスケ王国・福岡で生まれ育ったルンゲ春香の経験を見れば、決してエリートでなかったことはすぐにわかる。大阪の名門・樟蔭東女子短大で原石は磨かれ輝きだした。その後海外に活躍の場を求めた挑戦者は、その小さな体にあふれるほどの情熱と努力の種を持ち合わせていた。現在、愛知県半田市にあるソシオ成岩(ならわ)スポーツクラブを拠点として、3歳から15歳までの育成年代を中心に、全国各地の指導現場を飛び回る日々だ。

「普及」は平等、「強化」は不平等、不公平に進められるもの、と考える彼女の「育成」の核は、公平だという。選手の力量によって「公平」にグループ分けし、そのレベルに対して正しく考え方抜かれた指導が信条。選手が納得して学ぶための「ゴール」を提示することを、常に心がける。

良い習慣を 積み重ねること

それは3歳児も持っている。いかに磨き続けられるかが「勝負」という。メニューは①パスとコーディネーションのドリル、②4分の1コートでの2メンオフェンス、③フルコートでの3対3だった。

①では「アウトナンバーを作るために相手守備の状況を見て味方がどうしたいのか読んで」動く基礎を、②では「基本的な動きを応用して2人でタイミングを合わせ

ある日のクリニックのテーマは「判断力」だった。「トップ選手になれるかどうかの決定的な能力だが、

る」動きを、③では「個々の動きの裏と表を意識して、スペースを広げながら守備を壊す」ための判断を、何となくではなく「根拠を持って切れ目無く、速く下すことが大切」だと繰り返し伝えた。

愛知県バスケットボール協会のU14DC(育成センター)コーチも務める中、若い選手に求めるのは「大人になったとき、あなたと一緒に仕事したいと思われる人」になって欲しいということだという。選手として、人として、良い習慣を積み重ねることが最強の武器になると説く挑戦者は、自らも指導者として、人として、どんな習慣を提示できるかを今も考え続け、その理念を新たなバスケットボール文化として根づかせようとしている。



HARUKA RUNGE

ルンゲ春香

1981年、福岡県生まれ。身長150cm。舞鶴中、沖学園高から大阪樟蔭東女子短大を経て、荏原ヴィッキーズ(現・東京羽田ヴィッキーズ)へ。2年後、単身渡米しNAIA(National Association of Intercollegiate Athletics)等で活躍後、DJZ2部リーグでプレーし優勝。2011年からNPO法人ソシオ成岩スポーツクラブに勤め「イデアスバスケットボールアカデミー」を運営。コートネーム「ARU(アル)」。

ETICS COMPETITION 2024

REPORT

チーム
探訪
vol.3

故・長渡俊一氏が
築き上げた名門校

言わざと知れた高校界の
名門校である大阪薫英女
学院は、夏のインターハイは
今年で55回目の出場

で、優勝1回、準優勝
5回。冬のウインターハイ
に出場を誇っている。

カップは36回の出場で、準優勝3回という輝かしい成績

その名門チームを2015年から率いるのが安藤香
織コーチだ。安藤コーチは大阪府出身で、府立大塚高校
時代は3年生のときには大阪薫英女
学院を倒してインターハイ出
場を果たした経験がある。そし
て大学卒業後は指導者の道へと
進み、兵庫、京都でチームの指導にあたった後に



2004年から大阪府立豊島高
校に赴任。アシスタントコーチとして2年間、3年目から
はヘッドコーチとして全国出場を目指すとともに、前を行く大阪薫英女学院を倒そうと日夜練習に励んだ。その甲斐もあり、2011年にウインターハイ出場を達成。

一方で、大阪薫英女学院を全国のトップチームに築きあげた故・長渡俊一氏とは、国体チームのスタッフとして一緒に活動をしており、その間に様々な教えを直接受けた。長渡氏が生前に後継者として安藤コーチを希望して
いたこともあり、長渡氏が亡くなつた翌年、奥様でチームのスタッフでもある由子さんから
の熱心な誘いを受けてチームを引き継ぐ決心をした。

大阪の財産を引き継い
だ安藤コーチ

豊島では公立校で大阪薫英女学院を倒すこと目標にし
ていたが、「薫英」という大阪の

財産をなくしてはいけない」という思いで一転、名門校の指揮官となつた安藤コーチ。そこから今年で10年目となる。これまで大阪薫英女学院でも全国大会で準優勝、近畿大会で優勝など数多くの輝かしい成績を残しており、今年もすでにインターハイ出場を決めている。

だが、下級生の頃から主力を担つていた選手たちが多く卒業した今年は、例年に比べるとキャリアがまだ浅いため、「昨年のチームは3年間かけて積み上げてきたところがありますが、今年は一度戻つて、ワークをたくさんやつたり、シートの一つひとつを見直したりと土台を固めてきました」と、安藤コーチは

言う。まだまだ成長段階だからこそ、「足りないところはみんなで補えばいい」と、練習や試合を重ねながらチームとしての地力を付けてい

るところだ。実際、チームには卒業生の都野七海(トヨタ紡織サンシャインラビッツ)のような突出した選手は

また、6月21～23日の期間、和歌山県にて行われた近畿大会では準決勝で京都精華学園高校に敗れて3位に。大会での4試合を通じて、総力戦で戦う上でのディフェンスを指揮官は課題として挙げた。

大阪薫英女学院では毎年、スローガンを掲げ、それをあしらつたTシャツを着用して全国へと臨んでいる。今年、選手たちが考えた言葉は『sparkle』。きらめく輝くという意味の言葉だ。

いよいよ迫る高校生の夏の祭典。福岡の地で輝きを放つためにも、大阪薫英女学院は日々の努力を惜しまない。

ンディション不良も影響し、大阪桐蔭高校に敗れて準優勝。インターハイに表として出場することとなつた。だが、「負けてわかることもあります」と、安藤コーチ。過去にも府予選で敗れて大阪1位を逃しながらも、全国大会では好成績を収めた年もあつただけに、指揮官は悲観する

ことなく、しっかりとチームの現在地、そしてその先を見つめている。



夏のインターハイ
と大舞台で戦い
ながらキャリアを
積み重ねていく
構えだ。



大阪薫英女学院高等学校
安藤 香織 監督
KAORI ANDO

1977年、大阪府出身。大塚高～天理大～大学卒業後、兵庫、京都の高校に赴任。その後、地元・大阪の豊島高を経て2015年から現職に就いている。

敗戦からの学びをプラスに変えて

6月のインターハイ大阪府予選では主軸のコ

ディフェンスを基盤にしながら その年々での強みを發揮する 浪速の名門・大阪薫英女学院

大阪摂津市の住宅街にある大阪薫英女学院高等学校。
放課後ともなると、校舎横にある体育館からは、
ボールを突く音やバスケットシューズと床の擦れる音、
そして高校生たちの元気な声が響いてくる。

text & photographs
by Sanae Tajima



不在。しかし、今年は180センチや175センチを超える選手などが
主力には1年生もあり、6月の近畿大会、そして

夏のインターハイ
と大舞台で戦い
ながらキャリアを
積み重ねていく
構えだ。



ムには卒業生の都野七海(トヨタ紡織サンシャインラビッツ)のような突出した選手は

いるところだ。

実際、チー

HUSTLE BOARD volume 4

今回のツアーで一番印象に残ったWCCトーナメント



毎回アリゾナ大学のファンでご当地返す
PAC12トーナメント会場のT-Mobileアリーナ



ロヨラ・メリマウント大学のジャーステンパビリオンを見学に行ったら、ダニー・グリーン選手が偶然ワークアウトをしていた、「写真、1枚だけならないよ」と神対応



行きたいところは本当にたくさんあったのですが、ラスベガス以外の行き先をロサンゼルスにした理由……

実はもう一つありました。それは会いたい人がいたからです。一人目は、2022-23シーズンからUSCの女子バスケットボールチームのアソシエイトヘッドコーチをされているベス・バーンズさん。最後に会ったのは、前所属のルイビル大学女子バスケットボールチームを訪問した2020年2月、COVID-19パンデミックの真っ只中でした。

今回、会えるチャンスは18日のみでしたがドンピシャのスケジュールで4年ぶりに会うことができたのです。この日はチームミーティングが午前11時からで、「それまでだったらしいよ」とのことだったので、朝早くからオフィスと練習場があるホームアリーナ、ゲイレンセンターを訪問しました。

お忙しい中、ホームコートや練習場、トレーニングルームなどを案内していただきました。次回訪問する機会があれば、ぜひ練習見学もさせていただきたいとお願いしてUSCをあとにしました。これを書いているのはゴールデンウイークが明けた5月9日ですが、すでにNCAAプレシーズンランキングが発表されており、USCはディフェンディングチャンピオンのサウスカロライナ大学に次いで全米第2位。スタンフォード大学からキキ・イリアフェン選手がトランスマスターしており、エースのジュジュ・ワトキンス選手とのコンビで、来シーズンのNCAA女子バスケを賑わせてくれることを期待しています。

次に会ったかった人は、UCLA男子バスケットボールチームのオペレーションディレクター、ダグ・エリクソンさん。前回会ったのは実に12年前で、「覚えて



ゲイレンセンター内のオフィスにて、ベス・バーンズコーチとPAC12トーナメント優勝トロフィーと一緒に記念撮影

きをされ、オフィスに入ったのが始まりです。

なぜか当時のヘッドコーチのベン・ホーランドさんの部屋に入ることができ、UCLAのロゴが入ったTシャツとバスケットボールをいただいたことが未だに嬉しくて会いに行ったのですが……当然、その事も覚えていませんでした。ただ、覚えてなかったにもかかわらず、ホームアリーナのポーリーパビリオンや練習場を案内していただき、おまけにお土産をたくさんもらいました。恐る恐る訪問して本当に良かったと思います。夏に来日する予定とのことでしたので、次は東京か大阪で会えるのを楽しみにしたいと思います。

あとから聞いたのですが、ダグさんは日本に行ったことがあります。少し日本語を話せるので手招きしてくださったとのこと。「袖振り合うも他生の縁」とはまさにこのことなのだと、改めて感じたと共に、海外に行くとだいたい日本人に見えないとされる私が日本人に見られたことがとても嬉しく思いました。



商談も
しっかりと



ロサンゼルス市内に点在するコービーの壁画は世界中から訪れた人たちのメッセージが書き記されています

2024年3月8日から19日までの12日間、アメリカ研修に行かせていただきました。研修のメインは今年が最後となるPAC12トーナメントの観戦。その他にもさまざまなカテゴリーの試合観戦や大学施設の見学などとても貴重な経験となりました。ここでは大学の施設を見学した感想を中心にお伝えします。

USCでは女子バスケットボール部のアソシエイトヘッドコーチ、ベス・バーンズさんの案内で施設を見学してきました。ホームアリーナのゲイレンセンターに入ると、まずライトアップされた大きな大学ロゴと「FIGHT ON！」の装飾が出迎えてくれます。一歩入った途端にアメリカの大学の規模の凄さが伝わってきました。施設内に進むとトレーニングルーム、練習用の体育館、ミーティングルームやコーチの部屋などがあります。

バスケ部専用でこのような設備があること自体、日本では珍しいことだと思うので驚きを感じたのと、どの部屋でもそこに至るまでの廊下がカッコよく装飾されていてとてもテンションが上がりいました。このような素晴らしい環境で毎日練習に取り組める選手たちがとても羨ましく思います。

またUSCの女子部は今回のPAC12トーナメントで優勝しており、優勝トロフィーも見ていただきました。Nissyさんはトロフィーを抱えた写真を撮っていて、驚!! 残念ながら現在世界最高の選手の一人とされる、あのレブロン・ジェームズ選手(ロサンゼルス・レイカーズ)の息子ブロニー・ジェームズ選手には会えませんでしたがとても素晴らしい

会いたかった最後の一人は、ぬいぐるみ会社のトニー・ウェバーさん。5年くらい前にロスに1泊だけした時も会う約束をしていたのですが、その時は上手く予定が合いませんでした。今回トニーさんの会社を訪問して会うことができとても嬉しかったです。出会ったのが確か2013年、ラスベガスで行われたスポーツライセンス商品の展示会の会場でした。NBAやNCAAのロゴが入ったぬいぐるみなどのライセンス商品を生産しており、オリジナルのロゴでもオーダーができるということで、その場でいきなり大量のオーダーしたのが始まり。それ以来、チームのオリジナルや大会の記念品などで大変お世話になっている会社です。これからも良い関係を続けていきたいと思っています。

2024年春、久しぶりの『OTC USA TOUR』は、試合をおなかいっぱい観戦し、さらには「縁を大切にしたい」と改めて思った楽しいツアーとなりました。これからもどんどん情報発信しますのでよろしくお願いします。

text by AYA HANDA 未来のスター候補との「奇跡の一枚」

経験ができました。

UCLAの施設見学は男子部オペレーションディレクター、ダグ・エリクソンさんに案内していただきました。UCLAは全米トーナメント(NCAA Div.1)優勝最多11回を誇る超名門校。施設の設備や装飾もレベルが違いました。の中でも一番驚いたのが記念館。あらゆる部活のトロフィーや記念品が飾ってあり、UCLAのクラブ活動の歴史を一気に目することができます。何十ものトロフィーが並んでいる様子は圧巻でした。

また見学中、偶然にも女子部のエース、キキ・ライス選手、男子部のエース、アデム・ボナ選手に遭遇して写真を撮ることができました。ボナ選手はNBAドラフトコンバインに参加しており、NBA入りが期待されています。ライス選手も卒業後はWNBA入りが期待される選手。このツーショットを自慢できる人があまりいないというのがとてもショック……です。

今回のアメリカ研修は「どっぷりアメリカのバスケットボールに触れる」ことができ、とても良い経験になりました。実際に見たり、会ったりした選手たちが、プロの舞台で活躍している姿を観に、もう一度アメリカに行くという目標もできました。



未来のスーパースター UCLA女子チームのエース、キキ・ライス選手と奇跡の遭遇▼

アメリカ土産
プレゼント!
詳しくはp12をご覧ください。

最大21試合
観戦可能な
怖ろしい日程

今回はラスベガスで行われたPAC12(パシフィック12カンファレンス)男子トーナメント(3月13日~16日)の観戦がメインでしたがスケジュールを組むにあたり、その前後に行われるNBAのゲーム等を調べました。サンフランシスコでゴールデンステート・ウォリアーズのホームゲームと、スタンフォード大学とCAL(カリフォルニア大学バークレー校)の対決を観に行くのもありかと思いましたが、まずは目的地をロサンゼルスに決めました。

その理由はロサンゼルス・レイカーズの八村塁選手を観たかったことと、毎晩試合を観られるから、しかも5ゲーム。

8日 | ロサンゼルス・クリッパーズのホームゲーム

9日 | レブロン・ジェームス選手(レイカーズ)の息子がいる USC(サザンカリフォルニア大学)のホームゲーム

10日 | 昼間クリッパーズ、夜レイカーズのダブルヘッダー

11日 | NBAGリーグ、サウスベイ・レイカーズのホームゲーム

さすがに渡米初日の8日は、ゲーム中に100%寝落ちするのでパスしましたが、その翌日から4ゲームを観戦することができました。

8日からロスに4泊して12日からラスベガスへ移動するわけですが、移動初日にWCC(ウェストコーストカンファレンス)男子トーナメントのファイナルがあるので、当然観に行きました。対戦カードは下馬評どおりリーグ戦1位のセントメリーズカレッジ対ゴンザガ大学、移動の疲れが一気に吹っ飛び面白いゲームでした。

13日からは4日間続けてPAC12トーナメント。1回戦から全部観ると11試合。この時期にラスベガスに行くと他のカンファレンストーナメントも行われていて、まさに「カレッジバスケットボール祭り」。街に各チームの応援団があふれています。MWC(マウンテンウェストカンファレンス)とWAC(ウェスタンアスレチックカンファレンス)の男女トーナメント、BIG WEST男子トーナメントと、同時期に複数のトーナメントが行えるアリーナがあるラスベガスって本当に



日本のお土産を渡しにトーナメント前日、サザンカリフォルニア大学の磯野選手に会いに行きました。ちなみに準備したのはアメリカ人がみんな喜ぶ抹茶のチョコ

12日間のアメリカ研修は語弊なく、「毎日バスケ三昧」の充実スケジュールであった。試合の時間を基準に予定を組み、それ以外の時間でスポーツショップ巡り、大学巡り、壁画巡り……念願だったアメリカを思う存分堪能した。

いろんな大学を訪れ、構内を散策した中でUCLAとUSCには西寄浩彰氏の知人がおり、ホームゲームで使うアリーナやバスケットボール専用練習場、オフィスなども見学させていただくことができ大変貴重な経験になった。特に、実際に使われているロッカールームからコートへ向かい、たくさんの観客席を見渡した瞬間は、自分が選手になった気分で大歓声が聞こえてくるようであった。

今回、計18試合を観戦したが(すべてがフルゲームではないが)、4日目のWCCファイナルが一番印象に残っている。人生初のカレッジバスケ観戦は、試合内容はもちろんみんなで作る会場の雰囲気にとても興奮した。大人も子どもも関係なく皆が試合展開に一喜一憂、観客の熱狂はNBA以上に感じた。会場の装飾やデジタルビジョンで流れる動画はどれもカッコよくプロ顔負けの演出であるのに、応援の音はプラスバンドとチアリーダーと観客の声というアナログ感が逆に新鮮で、フリースローのブーリングは見応えがあった。私自身、夏の高校野球のプラスバンド応援が大好きなので、カレッジの試合には似通った面白さがあり、最初から最後までとても楽しかった。

また、個人的に興味深かったのが各大学のハンドシグナル事情。アリゾナ大はOKサイ

前号で過去のツアーをふり返りながら告知していた4年ぶりの『OTC USA TOUR』ですが、3月8日~19日の日程で行ってきました。2020年に次ぐ13名の大所帯、そして4年ぶりということいろいろ鈍っており、「何をしたらいいの!?」と思い出しながら準備しました。航空券からホテルやレンタカー、そして観戦チケットの手配などすべて面倒でしたが、それも久しぶりだったので楽しかったです。一般の参加者の方から旅行会社のスタッフだと思われていたようですが、一応(株)オンザコートでバスケットボールウェアの営業をしております(笑)……いや、ツアーコンダクター(旅程管理主任者)の資格取得をめざすべきか!?

文 西寄 浩彰 hiroaki nishizaki

神戸生まれ。学生時代10年間バスケットボールで汗を流し、現在は観戦専門。ここ数年は、NBA、NCAAなどを合わせて年間10試合以上を現地観戦。趣味はカレッジキャンバス巡り。

年ぶりの OTC USA TOUR

に凄い、ギャンブルだけではありませんでした。

PAC12トーナメント初日の第1試合は、ロス滞在中に観たUSCとワシントン大学のゲーム。今回はUSCを応援していたのでどうしても観たい試合でしたが勝利を信じ、ちょうど同時刻に行われたWAC女子トーナメントの1回戦を観に行きました。なぜかというとそのカンファレンスに所属しているSUU(サザンユタ大学)のゲームを観たかったから。そしてSUUには福岡県出身で今回のツアーに弊社の社員研修として参加した一人、半田 彩さんの高校の後輩、磯野志穂選手が所属しており、「トーナメントに出場できたら応援に行くよ」と約束していたのでした。

そのほか、BIG WESTカンファレンスに所属しているハワイ大学(ジェイコブス晶選手が所属)の試合も観たかったのですが今回断念しました。例年なら帰国前にサンフランシスコで1~2泊するのですが、今回はロサンゼルスに戻ることに。その理由はクリッパーズとレイカーズのホームゲームが二夜連続であったことと、対戦相手が両日アトランタ・ホークスだったからでした。なぜアトランタのゲームを観たかったかというと、アントニオ・ラングコーチに会えるチャンスがあったからですが、会えずじまいでの残念でした。

というわけで、今回観たのは17ゲーム。渡米初日以外毎日ゲーム観戦というなかなかタフな、そして充実したスケジュールでした。

Pac12 とは?

PACIFIC(パシフィック)12の略で、アメリカ西海岸の大学を中心としたNCAAのメジャーカンファレンスのひとつ。過去を遡るとPCC、PAC 8、PAC 10と加盟校が増えるにつれて再編を重ね、2010年にコロラド大学とユタ大学が加盟して現在のPAC 12になりました。その名通りアリゾナ大学、アリゾナ州立大学、UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、USC、オレゴン大学、オレゴン州立大学、CAL、スタンフォード大学、ワシントン大学、ワシントン州立大学、コロラド大学、ユタ大学の12校で編成されています。

日本でよく耳にするUCLAやアリゾナ大学を中心として、長年カレッジバスケットボール界を盛り上げてきたカンファレンスでしたが、放映権などの問題で2年前にUCLAとUSCがそろって脱退を表明したのを皮切りに、次々と脱退を表明。2023年9月にスタンフォード大学とUCバークレー校が脱退を表明して、現在残っているのはオレゴン州立大学とワシントン州立大学の2校のみ。今後どうなっていくのか興味深いところでもあります。前述の12校によるカンファレンストーナメントの観戦は、今回のツアーが最後ということになりました。

USCのホームゲーム ▲



ンの人差し指と親指を離した形で「WC(=Wildcats:チームネーム)」を表現。USCはFight onのスローガンと共にピースサインでVictoryの「V」を掲げ、オレゴン大は両手で「O」を、ちなみにUCLAのハンドシグナルが気になり拙い英語で質問したが、マイチ伝わらず解答は得られなかった。日本に帰って調べたところ、親指を曲げ4本指を立てるフォーズアップと呼ばれるハンドシグナルがあるそうだ。4本指がUCLAの4文字を意味し、両手でやるとUCLAの象徴的な8拍手の応援を表すらしい。

共通のシグナルはチームの一体感を高め、言葉が通じなくても真似するだけで簡単に仲間にいった気分になるとても良い文化だと思う。もし、またアメリカへ行くことがあれば、各大学でそれぞれのハンド



Wild cats



Victory



Oregon



4's up

シグナルを
しっかりキ
メた写真
撮影巡
りでもし
たい。



アリゾナ大学ワイルドキャットのハンドシグナル ▲



バスケットボールにまつわるあれこれを
幅広くお届けします。

ハッスルボード編集部

HUSTLE BOARD
volume 4

03

ART×Basketball=amiami supported by ON THE COURT

障害のある人たちのアート作品を、サブスクリプション(定額料金)で定期的に届ける合同会社amiami(アミアミ)を2023年6月に設立したのが、FIBAレフェリーとして活躍する高野杏実さんだ。同社では代表として、作品と展示場所のつながりを作るキュレーターとして多忙な日々を送る一方、審判としてもたゆまぬ研さんの日々を送る。

そんな高野さんとアーティストたちが、バスケットボールのためにデザインを考え、製品化のためのライセンス契約を結んだのが株式会社オンザコート。21年8月から現在に至るまで、毎年新作を発表し、売り上げをアーティストたちに還元する仕組みを作り上げた。全国の「Baller's(ボーラーズ)」で販売される商品からは、既存のデザインに縛られない世界観があふれる。

石川県で生まれ、その後日本と米国で育ち、立命館大学時代に初めて笛を吹いた高野さんにとって、仕事のマネジメント能力にたけた人ばかりと尊敬する先輩審判の姿を見続けてきたからこそ、事業と審判の両立は「当然」のことだった。

高野さんの3歳年下の妹、千佳さんが自閉症であることが事業立ち上げに大きく関係しているという。障害者も健常者も関係なく、「良いものは良い」と共有できる関係性を構築していきたいamiamiには現在、35人のアーティストが在籍。

350を超える作品を責任を持って届ける高野さんの姿勢はコート上の立ち姿とも重なる。飾る側や利用する側の思いに応えながら、既存の概念にとらわれない多様な視点を感じられる作品たちを丁寧に拝げていくことが「感性を大切にできる社会への一歩と考えています」と語った。



障害者アートと㈱オンザコートの
コラボ商品に囲まれる高野杏実さん

amiami
FIBAレフェリーの高野杏実さんが代表

04

聴こえない・聴こえる、 関係なくプレーしよう デバスケ団体 B-BALLY'd (ビバリード)

聴覚障害者による、デバスケットボール。大阪を拠点に、デバスケの普及と育成を目指す任意団体「B-BALLY'd (ビバリード)」が6月、2025年東京デフリンピックを目指す選手たちも参加する練習会を開いた。仲間の呼ぶ声、ベンチの指示、審判の笛など健常者にとっては当たり前の「音」が、聴こえない人も、聴こえにくい人も、そして聴こえる人ともプレーを楽しみ、強くなる場所を作りたい。そんな理想を掲げるのが、19年のデバスケ世界選手権で女子日本代表監督も務めた、須田将広代表だ。

鍵となるのはプレー中のコミュニケーション。ビバリードは障害の有無を問わずプレーヤーが意思疎通を図る「サインバスケ」を推し進める。それは日本語でも、日本語対応手話でも、日本手話でもない「身体共通言語」の確立。というと難しく聞こえるが、例えば速攻を指先で示したり、パスコースを視線で示したりするなど誰にでも分かりやすいサインを実用化し、コート上の誰もが実際にそれを使ってプレーすることを目標としている。

「(デフでは)常に考え、常に伝える必要がある。でもそれは手段が異なるだけで、すべての強いチームに必要ですよね」と話す須田代表の理想は、障害の壁を越えて選手に届く。19年世界選手権にも出場し、来年のデフリンピックを目指す九州産業大学3年生の豊里凜さん(21)は生まれつきの難聴だ。取材者の口元を読み取りながら「音がないとチームディフェンスが一番難しいけど、手の動きやアイコンタクトでコミュニケーションを取り続けることで補える。もっともっと成長して、デフリンピックで金メダルを取ることが目標」と、瞳を輝かせて懸命に語りかけてきた。



手話で選手と対話する須田将広代表。
表情豊かに語りかける



2025年東京デフリンピックを
目指す豊里凜選手

05



TSR X CUP 2024

専門学校生によるU18を対象にしたバスケ大会

8. TUE
27
QUALIFYING

8. WED
28
QUALIFYING

8. THU
29
RANKING MATCH

オープンハウスアリーナ太田/太田市運動公園市民体育館

参加チーム Participating teams

男子 12チーム

埼玉栄高等学校(埼玉県)
福島東陵高等学校(福島県)
横浜清風高等学校(神奈川県)
市立船橋高等学校(千葉県)
八千代高等学校(千葉県)
実践学園高等学校(東京都)
常磐高等学校(群馬県)
鹿島学園高等学校(茨城県)
川崎ブレイブサンダース(神奈川県)
千葉ジェッツ(千葉県)
横浜ビー・コルセアーズ(神奈川県)他

女子 8チーム

矢板中央高等学校(栃木県)
横浜清風高等学校(神奈川県)
高崎健康福祉大学高崎高等学校(群馬県)
市立太田高等学校(群馬県)
久喜高等学校(埼玉県)
日本航空高等学校石川(石川県)
八千代高等学校(千葉県)
水城高等学校(茨城県)

OPEN CAMPUS

同時開催

TSR主催の大会だからこそ、運営やサポートに多数の学生が関わっています。
当日の臨場感あふれるスポーツの現場をご案内します。

8/THU
29

オープンハウス
アリーナ太田にて開催

参加費無料

バスケットボールアジア予選で、日本代表が出場切符を手に入れたあの会場でU18のドラマが!



観戦
無料

バスケット界の未来を
取り戻せ!

学校法人 滋慶学園

東京スポーツ・レクリエーション専門学校

●主催・主管/東京スポーツ・レクリエーション専門学校
●協 力/株式会社パワーボイス 株式会社アベスポーツ
葛西第三中学校バスケットボール部 株式会社オンザコート

01

大学・社会人女子15チームが実戦交流
HOOPREX CUP
Ohama Daishin Arena
2024.5.25-26

例年、女子チームの実戦強化の場となってきた『OTC CUP』(昨年は『OTC/SPAZIO CUP』)が名称を改め、『HOOPREX CUP』として開催された。5月25、26日の両日、大阪府堺市の大浜だいしんアリーナに集まつたのは大学・社会人の15チーム。カテゴリーの違うチームが集い、ハーフゲームを数多くこなして実戦経験を積み重ねるのが同カップの特長だ。今年度よりWリーグフューチャーで戦う姫路イーグレッツをはじめ、地域トップレベルの滋賀銀行や紀陽銀行、鶴屋百貨店などに加え、国民スポーツ大会(旧国民体育大会)を見据えてOKINAWAなども参加。各チームとも新戦力と現有戦力の融合を図りながら、本格的なシーズン到来を前に熱戦を展開した。

注目は、昨季まで西日本地域リーグで「日立笠戸」として戦い、今季からクラブチームに生まれ変わった「笠戸ブレイブスター」。日立グループのバックアップは一部そのままに、「星降る街」と言われる山口県下松市に根差して強化を図っている。池部宏チームリーダーは、「地域一体となって社会人日本一を目指す」と力強く宣言。他にも大学チームが5校参加し、リーグ戦や秋の大会への準備に余念がなかった。

会場には託児スペースが設けられていたり、近畿地区の審判やテーブルオフィシャルの研修が行われたり、恒例のフリースロー大会ではプレゼントが用意されるなど、真剣勝負だけでなく和やかな雰囲気も感じられた。

参加チーム

姫路イーグレッツ(2024年度Wリーグフューチャー)
滋賀銀行LakeVenus(2023年度西日本地域リーグ1位)
鶴屋百貨店(同2位)
紀陽銀行HeartBeats(同4位)
笠戸BRAVE STAR(旧日立笠戸:同5位)
OTCくきや(同6位)
播磨ホワイトバックス(同7位)
アストライア(同8位)
アステム湘南ウイクトリアス
OKINAWA
名古屋経済大学 大阪産業大学
関西学院大学 園田学園女子大学
天理大学



02

OTC Kukiya Report
OTCくきや 通信

報告:#9 矢田貴海 KIMI YATA

No.19
高橋こはく・サラ

「はじめまして～！今年からOTCくきやの一員となりました、『サラ』こと高橋こはくです。まだまだピヨピヨですがピチピチではあるので、個性豊かなお姉さまたちに負けず、私も目一杯自分の色を出していけたらと思いますっ！応援よろしくお願いします!!」



いつも応援ありがとうございます。『OTCくきや』です。今回のOTCくきや通信では4月からチームに加わった新メンバーをご紹介させていただきます。

OTC
Kukiya



No.10
澤田知里・テン

「今シーズンからOTCくきやに入団しましたテンです！背番号10で『テン』と覚えてください。ちなみに、誕生日も10月です。このような環境でバスケットボールができることに感謝しながら、チームに少しでも貢献できるよう精一杯頑張ります！応援よろしくお願ひします!!」

Hustle Board



皆人公平、
寄港中

VOL.4

皆人公平
text by Kohhei Minato

スポーツ好きの編集者(ライター)。とくにバスケットボールはプレー上位に好んで取り組むようになった。スポーツに限らず、さまざまなジャンルの書籍や雑誌・パンフレットなどの制作・原稿執筆も経験。近頃は関西バスケに興味をそそいでいる。

日本の夏は暑い、暑すぎる。そう思って調べてみたら、平均気温に関しては急上昇しているわけではないようだ。ただ、35度以上の猛暑日は確実に増えていて、40度以上、酷暑となる地域もある。

ああ暑い、暑いけど、夏は成長の季節でもある。

夏の前、梅雨の時期に雨が降り、その後の高温が酵素反応を促進することで土壌中の栄養分が効率的に吸収され、作物の「成長」を助けるそうだ。いや、何も作物に限ったことではない。人間だって夏に身長が伸びる気がするんだが……!? 夏は日照時間が長く、太陽の光をたくさん浴びることでビタミンDが増加し、カルシウムの吸収力も高まって身長が伸びると一般的に言われている。

ただし、理論上身長が伸びる季節というのではなく、個人差が影響することも付け加えておかなければならない。

夏に身長が伸びたと感じるかもしれないが、それ以上に内面、メンタルの成長が期待できる季節ではないだろうか。新チームになって初めての夏休み。「インターハイ」(全国高等学校総合体育大会)や「全中」(全国中学校バスケットボール大会)に参加するチームもあるが、ほとんどのチームは次なる目標に向けて練習に明け暮れているところだ。

もっとバスケが上手くなりたい! その一心で仲間と汗を流し、シュートやドリブル、連係プレーに磨きをかけようと必死のはず。でも、上手くいかないことがたくさんあり、悩んだり落ち込んだりするかもしれない。でも、それこそが成長の糧になることを忘れないでほしい。

バスケを好きになる——選手であっても、観戦オンリーであっても、この夏は『もっとバスケが好きになる!』

日本代表がパリ五輪で躍動する夏。インターハイや全中で活躍する選手たちがいる夏。テレビ観戦やネット配信で観ることができるし、そう、自分だって頑張っている夏だ。好きになるきっかけは思いがけずやって来る。日本の夏は熱い、今年の夏は特に熱い。夏は成長の季節、バスケをもっと楽しもう!



HOOPREX®

BASKETBALL GOODS

Hard work beats talent when talent fails to work hard.

力の限りを出し尽くせ、才能が自惚れに打ち倒されぬよう

produced by
TC
ON THE COURT®



アンケートに答えて豪華プレゼントをもらおう!!

以下の①～⑥のいずれかを各1名様にプレゼントします。
当選された場合、誌面掲載にご協力いただく場合があります。予めご了承ください。



各1名様

締切 2024年8月31日(土) 12時00分

*回答はお1人1回までとさせていただきます。
*当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。
*本アンケートは予告なく変更・中止させていただく場合がございます。

スマートフォン、PC、タブレットから応募

<https://00m.in/bIrqN>

にアクセスしてアンケートにお答えください。



*一部の端末・機種でご利用いただけない場合があります。予めご了承ください。